

## 今月の御教え

神は一体じゃによって、此方の広前に参ったからというて、別に違うところはない。あそこではおかげを受けたけれど、ここではおかげを受けられぬというのは、守り守りの力によって神のひれいが違ふのぞ。神の守りをしておれば、諸事に身を慎み、朝寝をしてはならぬ。早く起きると遅く起きるとは、氏子が参詣の早い遅いにかかわるぞ。

……金光教祖御理解 第九十二節……

解説 この御理解は、生神金光大神様、天地金乃神様からの『取次者』に対する、御理解であります。

「神は一体じゃによって、此方の広前に参ったからというて、別に違うところはない」とは、このお道の御広前はどこも同じ「天地金乃神様」をお祭りしているのに、広前によって御比礼が違ってくるのは、その取次者の力いかんによるものであるから「取次の教師は、身を律して日々信心の稽古に励まねばならぬ」との御教えであり、これはお道の先生である取次者に対する厳しい訓戒であります。この「金光教祖御理解」の百節は、ほぼ全部が、教師、信徒にかかわらず、信奉者全員が共に頂くべき御教えであります。中にはこのように特に取次者、教師に向けた御教えが何節か見当ります。それと又、特に信徒に向けた御教えも何節か見当ります。例えば、七十二節の「人間を軽う見な。軽う見たらおかげはなし」との御教えは『人間』とは取次者のことであり「取次を頂く者は取次者に対して《生神金光大神様のおて代わりの先生》との敬意がなくではお陰は頂けない」との信徒に対する御教えであります。これらの取次者(教師)、信徒に向けた何節かの御理解は、教師と信徒が、それぞれの立場、領分をわきままえ自覚して信心の稽古、研鑽に勤めることの大切さを教えて下さっているのであります。今、全国各地で次々と「天地金乃神大祭」が仕えられておりますこの時節に共に大御陰を頂くべく、一層、信心の稽古に励ませて頂くようではありませんか。